

令和2年度 世界農業遺産小学生作文コンクール 入選作品集



○最優秀賞

杵築市立立石小学校 芋岡 海斗 「クヌギ林とため池がつなぐ農林業」

○優 秀 賞

国東市立安岐小学校 松丸 芽愛 「世界農業遺産に選ばれた国東半島宇佐地域」

杵築市立北杵築小学校 大鳥 悟 「世界農業遺産と農林水産循環システム」

○入 選

豊後高田市立高田小学校 栗元 京香 「米作りを通して学んだこと」

豊後高田市立高田小学校 安部 鈴菜 「米作りを通して学んだこと」

豊後高田市立河内小学校 仲井 悠陽 「健康と安全を守る大切な仕事」

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会



国東半島宇佐地域世界農業遺産 Kunisaki Peninsula Usa GIAHS

令和2年度「世界農業遺産小学生作文コンクール」概要

1 目的

次代を担う小学校第5学年及び第6学年を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く世界農業遺産に対する関心を高め、理解を深める。

2 主催 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

3 実施内容

- (1) 名 称 世界農業遺産小学生作文コンクール
- (2) 対 象 国東半島・宇佐地域内在住の小学校第5学年及び第6学年の児童
- (3) 課 題 「私のふるさとの世界農業遺産」(題名は自由)
- (4) 原 稿 400字詰原稿用紙3枚以内(1000字～1200字程度)
- (5) 応 募 数 域内14小学校より90点

○最優秀賞 「クヌギ林とため池がつなぐ農林業」

杵築市立立石小学校 6年 ^{いもおか} 芋岡 ^{かいと} 海斗

ぼくは、二年生の時に、しいたけのこま打ち体験をしたことがあります。その時は、教えてくれる人が準備を全部してしてくれたので、楽しくこま打ちをするだけでした。その後もしいたけ作りの世話をしないで、「いつできるんだろう」と、ただ楽しみに待っているだけでした。しいたけは、こま打ちをしたらすぐにできると簡単に考えていました。

六年生になって、「雑木林の一年」という本を読みました。この本には、ぼくが体験したこま打ちのことがくわしく書かれていました。しいたけは、菌をほだ木に打ちこみ、ほだ木を栄養にして成長させます。ほだ木にドリルであなをあけ、種こまを植えるのです。

でも、こま打ちは、しいたけ作りのすべてではなく、他にもたくさんの作業があることを知りました。こま打ちまでには、クヌギの木を切ってかわかし、ちょうどよい水分量になったら丸太に切り分け、ドリルであなをあけておかなければなりません。こま打ちの後も、ほだ木を組んだりひっくり返したりすることや、ほだ木を水にひたす作業をすることなど、一年中いろいろな世話をしていることを知りました。このような雑木林の一年の繰り返しは、おいしいしいたけにつながっているんだなと思いました。

国東半島・宇佐地域が世界農業遺産に認定されたのを知ったのは、三年生の時でした。その時はあまりきょうみや関心がありませんでした。六年生になって、世界農業遺産について調べ学習をする中で、日本に十一地域しか認定されておらず、そのうちの一つに自分たちが住んでいる国東半島が認定されているのは、とてもほこらしいと思いました。

インターネットで調べていると、クヌギ林がしっかり根をはるにより、土が水をためこむ力がより高くなり、それがため池の水につながっていることもわかりました。

ぼくの住んでいる立石地区は、山に囲まれており、その間に小さな川が一つ流れているだけです。それなのに、どうしてたくさんこんなにおいしいお米が作れるんだろうと疑問に思っていました。しかし、調べ学習をしていくと、学校の北側にあるたくさんのため池が関係していることがわかりました。ため池をつくり、そこから水を引けるようにする知恵は、何てすごいんだろうと思いました。

こんなふうに、クヌギ林とため池が、土と水でつながっており、しいたけ作りや米作りにもつながっていることに感動しました。

世界農業遺産について学習していく中で、世界農業遺産とはどのようなものなのか、自分はこれからどのようにしていけばよいのかを考えることができました。

世界農業遺産は、今の伝統的な農法や文化などを未来につなぐ取組なのだと思います。世界農業遺産に認定されたことをしっかりと受けとめ、大切にしていきたいです。



○優秀賞 「世界農業遺産に選ばれた国東半島宇佐地域」

国東市立安岐小学校 5年 ^{まつまる}松丸 ^{めい}芽愛

「これ、何か分かる。」

先生が一枚の写真を見せてくれた。よく見てみると、それはため池の写真だった。他にもクヌギ林やシイタケの写真もを見せてくれた。

五年生になって「木が食料を産む」を読んだりパソコンで調べたりして、世界農業遺産は「世界的に重要な農業の遺産システム」ということだと初めて知った。

昔から国東地域にはたくさんのクヌギ林とため池があって、それらが育むじゅん環システムが世界農業遺産に認定された決め手になったそうだ。クヌギ林で原木を育て、伐採した木を使ってシイタケの栽培が行われる。クヌギ林は伐採されても、また芽を出して再生するので、木材資源がじゅん環するということになる。また、ため池の水も農産物を育てて、川から海に流れ、海の生き物の栄養となり、じょう発して雲ができ、雨となる。その雨をクヌギ林が保水することで、ため池にはいつも水が保たれているというのだ。このように、シイタケ栽培を行うためのクヌギ林の輪、ため池がもたらす水の輪、これらが農林水産の輪にもつながっていることを知り、私はとてもよく考えられているなと思った。

私は、国東半島宇佐地域が世界農業遺産に認定された意味を知って、改めてふるさとについて考えてみた。私は小さいころ、虫を捕って観察した経験がある。その場所はとても自然が豊かで静かだった。私にとって林の中のその場所は一番落ち着く場所で、おすすめの場所だった。私は、これからも豊かな自然環境の一つである森林を守っていききたいと思う。そのことが国東半島宇佐地域の宝を守っていくことにつながると思う。

また、昔ながらの景観を保つ宇佐地域では地域内外の人で昔ながらの田植えやいねかりを行っているそうだ。私は昔から続く安岐町でのお祭りや行事を毎年楽しみにして参加している。世界農業遺産を調べて、これからも地域に残されている伝統文化についても、何のために行っているのか、どんな思いがこめられているのかなどを調べていききたいと思った。そして、伝統文化に積極的にふれていききたいと思っている。



○優秀賞 「世界農業遺産と農林水産循環システム」

杵築市立北杵築小学校 5年 おとしり さとる 大鳥 悟

「今、ぼくが住んでいるところって世界農業遺産なの!」「世界農業遺産に認定されているところは世界に五十四地域しかないのにぼくはめちゃくちゃすごいところに住んでるじゃん」「だけど、なんで国東半島が選ばれたんだ?」

ぼくの頭の中にはビックリマークやハテナマークがいっぱいうかんだ。祖父や祖母が農業をしているので、ぼくは手伝ったり作業の様子を間近で見たりと、農業を身近に感じているからだ。

最初にうかんだぎ問は、どのような理由で世界農業遺産に選ばれたのかだ。インターネットで調べたら、「農林水産循環システム」という文字が出てきた。農業では、ふつう、化学肥料を使うがそれを使わずに、動物のふんや死がいや土の栄養となると書かれていた。その森の中で育つクヌギを利用して、しいたけをさいばいしているそう。化学肥料を使わずに自然のもので栄養をおぎなうことは、きっとそれを食べる人間の体にとっても良いはずだ。植物の命も動物の命も、全てがむだなく使われていることにびっくりした。ぼくは、このような農林水産循環システムが世界に認められたことをほこりに思い、またこの地を守っていききたいと思った。

最近、大雨や洪水など自然災害のニュースをよく耳にする。この北杵築は杵築の中でも農業が盛んだ。田んぼや畑がたくさんあり、森林もある。しかし、山の木を切り倒し、太陽光発電のためのソーラーパネルを設置している場所もある。太陽の力で電気をつくることはとても良いことではあるが、このままでは、森林やそこに住んでいる虫、畑や田んぼが無くなってしまいかも。今の杵築の景観や世界農業遺産に認められた農林水産循環システムを、この杵築から消したくない。

ぼくは、将来、やってみたい仕事がたくさんあるけれど、祖父母がしている農業をつぎたいという気持ちもある。ぼくやたくさんの方が農業や漁業などの産業を継ぐことは、世界農業遺産に認められたすばらしい自然を守りぬく第一歩ではないだろうか。今、すぐにぼくができることは少ないかもしれないけど、ぼくの得意な新聞づくりを生かしてみんなに世界農業遺産について知ってもらったり、時々、祖父母の手伝いをしたりと、今、ぼくのできることで、世界農業遺産に認められたこの地を守っていききたい。



○入選 「米作りを通して学んだこと」

豊後高田市立高田小学校 5年 栗元 京香くりもと きょうか

わたしたちは、社会の時間に米作りについて学びました。農家の人たちは、長い時間をかけておいしいお米をつくっているのだな、と思いました。

今と昔の米作りの変化を学んだ時、昔は機械を使っていなかったと聞いてびっくりしました。最近では、機械を使っているので前よりやりやすいと思います。けれども、その分、機械を買うお金がない人もいます。その人たちはみんな協力しているそうです。そして、農家の人たちは、今、品種改良にがんばっているそうです。研究センターと一緒においしくて、病害虫に強いお米を作っているそうです。

農家の人たちが今、困っているのは、働く人の数が減っていることです。このままではお米を作る人がいなくなって大変なことになります。そこで、農家の人たちが小学校に出前授業をしているそうです。私が行っている学校にも出前授業をしに来てほしいです。もし来てくれたら、農家の人たちの話をよく聞いて、実際に試してみても、どんないいことがあるか、もっと知りたいです。特に代かきと田植えを試してみたいです。

わたしたちは総合の時間にバケツで米作りをしました。まず、最初に土と水を混ぜる代かきをしました。その次に種を入れました。そのあとに中干しをしました。その中で私が一番楽しかったのは田植えです。バケツの中だったので、少ししか種を植えられなかったけど、楽しかったです。

一週間に一回アイパッドで観察しました。観察をするたびにどんどんせたけが高くなっていきます。今は八十センチメートル位になりました。台風十号が来る前にたいさくをしました。バケツ稲を安全な場所に移動しました。移動をしたおかげで、今もぐんぐんと育っています。

米作りをして、わたしが考えさせられたことが、二つあります。

一つ目は、お米を作るのに、約十カ月程かかるということです。その十カ月程の間にたくさんの工夫や知恵や苦労がつまっているということです。

二つ目は生産者・消費者・働く人が減っているということです。わたしたち、農家以外の人ができることは何なのか考えました。まずは、お米や野菜をたくさん食べて、いい消費者になることです。わたしは、実は野菜が苦手だけど、たくさん食べたいと思います。そして、将来、農家を支える人になることです。

わたしは、将来、農家になることを今は考えていないけど、勉強することで農業がぐんと身近になりました。



○入選 「米作りを通して学んだこと」

豊後高田市立高田小学校 5年 ^{あべ}安部 ^{れいな}鈴菜

私たちは、社会の時間に米作りについて学びました。農家の人たちは、いろいろな手間をかけて、お米を育てていることがわかりました。その手間をできるだけ少なくするために、昔から知恵を出したり工夫をしたりしてきたことを勉強を進めていく中で知りました。そうして、田植機やコンバインなどの機械を発明して、米作りに使うことで、農家の人たちの労働時間が短しゅくされてきたことがわかりました。

そこで、私たち五年生は、総合的な学習の時間にバケツで米作りに挑戦しました。学校のiPadを使って、観察したことを記録したり、放課後や休み時間を使って、苗の水やりなどの世話をしたりしました。

まずは、教室で粳種を水につけて水分をたっぷり吸わせ、種目を覚まさせました。いつも食べているお米から芽が出てきたときは本当にびっくりしました。しばらくすると芽が大きくなってくると、元気のよさそうなのを五、六本だけ残して育てることにしました。こんなに少なくて大丈夫かなあと心配していましたが、少しずつ少しずつ確実に大きくなってくると見て安心しました。そして、葉などが大きくなって、そのすき間から穂が出てきました。穂が開いて花が咲くと聞いていたので、とても楽しみにしていました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、いつもより夏休みが短くなったために、八月下旬の夏休みの朝、白くてかわいらしい稲の花をクラスみんなで見ることで感激しました。

最初は、中庭にバケツを置いて、教室からいつも稲を見られていたけど、校舎の改修工事のために、少し離れたところにバケツを置かなくてはならなくなりました。そのため、水やりや観察が大変になりました。また、台風十号が近づいてきたときには、暴風対策のためにその近くの溝のようになっている所にバケツを避難させて、台風から稲を守りました。バケツ稲を育てるだけでも、いろんな問題が発生して知恵や工夫で乗り切ってきたので、本当の田んぼで米作りをすると想像しただけで、その苦労は計り知れないなあと感じました。

私たちの住む豊後高田市には、中世の田んぼの形を今に残す田染の荘があり、世界農業遺産に認定されています。今からおよそ千年もの昔の人たちも、私たちと同じようにいろんな苦勞をしながら、稲の花を見たり、穂が実るのを楽しみにしていたりしたのだらうなと想像することができます。

今のところ、ちゃんと穂を実らせてくれているので、稲刈りで失敗しないよう気をつけて、おいしいお米が食べられるのを楽しみにしています。



○入選 「健康と安全を守る大切な仕事」

豊後高田市立河内小学校 6年 なかい はるひ 仲井 悠陽

ぼくは、世界農業文化遺産の資料を読んでびっくりしました。「農業をする人が減ってきている」と知ったからです。農業はみんなの命を守る大切な仕事です。「なくなったら困るだろ」と思わずつぶやいてしまいました。

ぼくたちは、5年生の時伊藤さんから米作りを教わりました。田植えや稲刈りをして米を脱穀しました。ぼくたちに準備をしてくれるだけでも大変なのに終わった後にもおいしいおにぎりや漬物をごちそうしてくれました。「まかない」と言うそうです。日本には、いい文化が残っています。

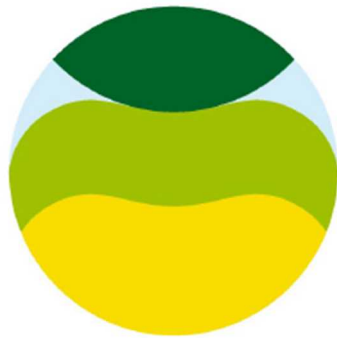
また、ぼくの家は牛を1000頭ぐらい飼っています。毎日牛の熱を測ったり餌をあげたりしています。お父さんは、6時に起きて新聞などを読んでから7時に姉ちゃんを送ります。そして8時にぼくを送ります。それから仕事。ぼくがサッカーの日は、6時ぐらいから熱を測りに行きます。お父さんが主にする仕事は、牛を運んだり牛舎から牛舎に牛を移動させたり熊本に牛を買いに行ったりすることです。熊本は、12時から1時の間で始まって、大体4時から5時で終わります。帰って来るまでおばあちゃんとおじいちゃんたちで、牛が入るおりと水を準備します。普段は、お父さんが大きい牛の世話をよくします。おばあちゃんは、小さい牛のいる3個の牛舎を主にしています。放牧は主におじいちゃんです。そしてじいじとばあばは、野菜を育てています。牛の糞を大きな機械で混ぜて肥料を作ります。その肥料を土と混ぜて野菜を作ります。夏になったら、トマトやキュウリ、ナスなどをたくさん持って来てくれます。とてもおいしいです。新鮮な野菜がずっと食べれるといいなと思います。

学校で日本の農業について勉強しました。農業をしている人は、どんどん減って高齢化しているそうです。また農地面積も少なくなっています。農業がなくなると、野菜や肉などスーパーに並ばなくなります。並ばなくなったら、食べられなくなるか他の国から輸入するしかありません。どんな物が混ざっているか分からないので心配です。

ぼくがお父さんやおばあちゃんたちに思うことは、いつも自分の健康と牛の健康と食べる人の安全を考えて牛を育てないといけないので大変だなということです。でも、とてもかっこいいです。みんなの命を守っているからです。本当に大切な仕事だと思います。

ぼくは、大変だけど日本の農業がずっと続くといいと思います。そして、もっと農業をする人が増えるように、学校の勉強の中にももっと入れたらいいと思います。みんな作ったり食べたりすれば、農業の良さが分かると思うからです。そして、他のみんなも食べ物を大切にして、日本の農業や文化を守って欲しいなと思いました。





国東半島宇佐地域
世界農業遺産
Kunisaki Peninsula Usa GIAHS

The Kunisaki Peninsula Usa Area

GIAHS